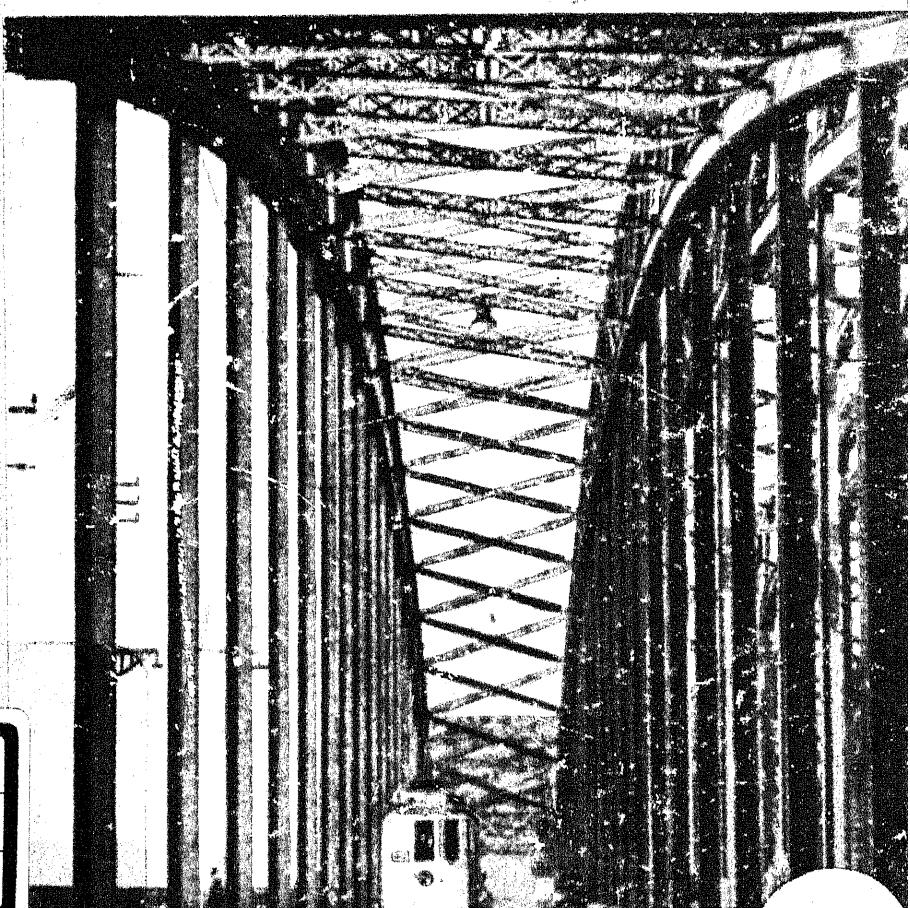


橋の美學

工學博士 鷹部屋福平著



D08.03

T

24072

アルス文化叢書・17

書籍 美術
銀座・三昧堂
電話・銀座(01)一八〇八番

昭和56年4月28日

新刊書 葉文七二男氏

橋の美學

工學博士

鷹部屋福平著



名著100選図書

56.5.26

| | |
|----------|-----------|
| 登録 | 昭和年月日 |
| 番号 | 第 24072 号 |
| 社團 法人 | 土木学会 |
| 附属 | 土木図書館 |

はしがき

水の都ベニスには小さいながら古典的な美橋が多い。それ等の橋は、多くは石造である。中華民國にも石橋には美しいものが所々にある。

琉球から九州にかけて、我國の古い石橋にも、なかなか捨て難いものが今日に多々残つて居るが、人の注意をひかぬものがある。

近代的な橋梁美は、材料の進歩と、大きなスパンを渡るところに合理性を與へる構造力学の所産だといつてよい。

人類が建設構築した構造物の中で、最大最長を誇るもの——それは凡そ橋梁であるといひ得るであらう。

近代的橋梁美は、それが審美的に、力學的に、合理的構成に組立てられて居るところに存する。

1本の部材もそれが遊んで居ることは許されないし、1本の鉄も構造力学的な計算から割り出されて居ないものはない。

複雑な構造必ずしも美を與へるものではなく、無駄の省かれた手法と、洗練された比例と調和こそ、眞の橋梁美、構造美を生むものである。

曾て、雑誌『土木工學』に掲載した『構造美と橋梁美』に加筆補足してこの小本を編んだ。

寫真の提供をいただいた諸賢に厚く御禮を申し上げる。

アルス編輯部池上猶市氏には特に種々と御高配いただいた。茲に深謝の意を表する次第である。

昭和 17 年 1 月

札幌に於て

著者